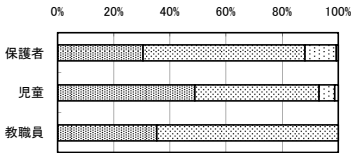


☑4-そう思う ☑3-どちらかといえば、そう思う ☑2-どちらかといえば、そう思わない ☐1-そう思わない

学校教育目標

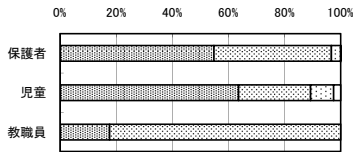
1 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者、地域にわかりやすく示していると思いますか。



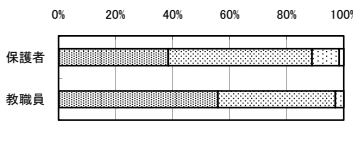
2 意欲的な学校生活

子どもは、楽しい学校生活が送れていると思いますか。



3 教師の連携協力

学校では、先生方が連携協力して教育活動に取り組んでいると思いますか。

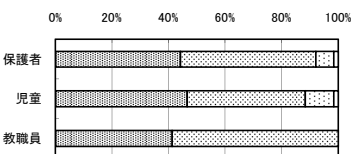


【学校から】意欲的な学校生活においては、ほぼ昨年通りで、特に児童の4の評価が10%高くなった。子どもたちが学校目標や学級目標を意識して活動に取り組んだり、授業参観や懇談会、PTA総会等で方針を伝えたりした成果と考える。また、自校のこれまでの取組を見直していかうという職員意識も高く、3年間の学級活動と生活単元学習の研究に一丸となって取り組んできた。目標達成に向け、めあてを子どもたちいかに意識化させていくかが大きなポイントであると実感した3年間だった。今後も校訓に基づく学年・学級目標を具現化しながら、子どもたちにわかりやすく掲げ、子どもたちのアイデアを引き出しながら、その機会を増やし学校教育目標達成に励んでいく。教師間の連携に関しては、学校の取組をもっと授業参観、学校便りや総会等でアピールしながら、さらに信頼できる学校・職員となるよう全職員で取り組んでいく。

教科指導

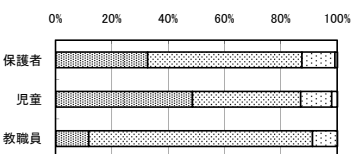
4 授業づくりの工夫

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



5 意欲的な学習態度

子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。

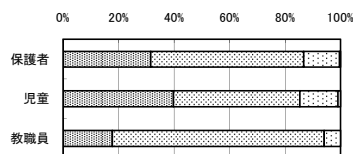


【学校から】授業づくりの工夫については、保護者の評価は昨年度とあまり変わらないものの、児童と教職員の評価はかなりの伸びを見た。これは、学級活動や生活単元学習を通じた仲間づくりを基盤とした支持的風土が学級にできてきたこと、学力検査等を踏まえた授業づくりや個に応じた指導の取組の成果と考える。今後も少人数指導の充実を図り、授業改善や個に応じた指導を徹底していく。意欲的な学習態度は、昨年度を三者とも上回り、今後はさらに聞く、話す態度の育成に努める。

総合的な学習の時間

6 総合的な学習の時間の充実

子どもは、総合的な学習の時間に意欲的に取り組んでいると思いますか。

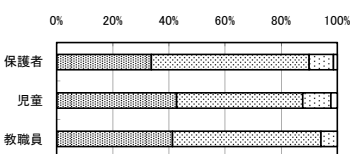


【学校から】三者とも、昨年度に比べ5~10%高くなっている。内容の精選を行い、各学年の系統だった学習計画を立てることができた。学校や地域の特性を生かしながら、地域の人材をより活用した活動を設定する機会も増やしていく。

道徳教育 心の教育

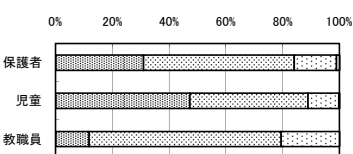
7 道徳、心の教育の充実

学校は、思いやりの心や感謝の心などを大切にす心の教育の充実に取り組んでいると思いますか。



8 あいさつ、礼儀の励行

子どもは、あいさつがきちんとできていると思いますか。

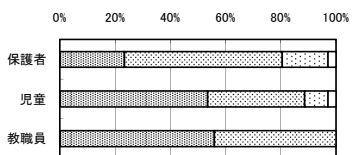


【学校から】保護者や児童の3、4の割合が5%ほど増え評価は上がった。規範意識とあいさつ、礼儀、生命尊重等の重点項目を取り上げて実践してきた結果と考える。道徳の授業を充実させながら心の教育を推進すること、学級活動とも関連をもたせて実践していくこと、あいさつやきまりについては、月の生活目標で年4回具体的な行動目標を示し、徹底した実践を図ること等は来年度も継続していく。朝から、生活委員会やボランティアによるあいさつ運動も増え、定着してきた。教職員では、「相手の目を見て、立ち止まってあいさつする」等のあいさつの仕方をさらに徹底したいという思いが高く、4の評価がわずかに下がった。今後も「4つのあ」運動の行動目標を明確にし、実践を継続していく。

人権教育

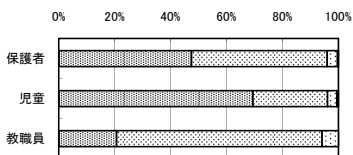
9 一人一人の生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にす指導や対応ができていると思いますか。



10 友だちへの思いやり

子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。

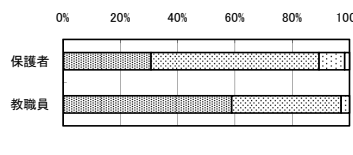


【学校から】「一人一人を大切にす取組」や「友達と仲良くすること」において、三者とも昨年度に比べ5~10%伸びていた。一人一人をより理解するために、本年度は月に2回の児童理解のための時間を設け、年3回の「いじめアンケート」を実施し迅速に対応できた。また、新たに11月に教育相談時間を設定し、担任による個人面談を実施した成果と考える。今後も、職員間で情報交換しながら、子ども一人一人に寄り添った人権教育を推進していく。また、日常生活の中で子ども同士の些細な言動に目を向け、その場でよいことは誉め、いけないことはいけないという指導をさらに徹底していく。自分の大切さとともに、他人の大切さを認めることが大切であることを十分指導していく。

特別支援教育

11 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

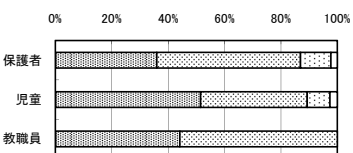


【学校から】二者とも昨年度をわずかに上回った。夏休みに設けた保護者教育相談も2回目となり、保護者と子ども理解を進める取組は成果が上がった。支援体制の構築や特別支援教育の授業研究等にも取り組んでいる。日々子どもたちと向き合う教師や保護者の声を吸い上げ、さらに充実かつ円滑な支援体制になるよう工夫を重ねる。今後も迅速に対応するための校内の体制づくりを特別支援コーディネーターを中心に進めていく。

生徒指導 教育相談

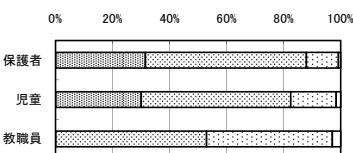
12 生徒理解

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解していますか。



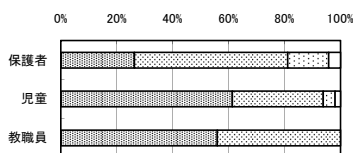
13 規範意識

子どもは、きまりやマナーを守っていると思いますか。



14 いじめや問題への対応

学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。

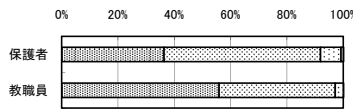


【学校から】生徒指導といじめ問題の対応について、児童の4の評価が増加したことは、教師の子どもに対する細やかな対応の成果だと考える。しかし、1の評価があることを注視し、迅速な対応はもとより、連絡や報告をさらに密に行い、教師の危機意識を高める研修を実施していく必要がある。教育相談については、子どもも保護者も担任も一人で悩まず、誰かに聞いてもらおうとする姿が見られるようになり、カウンセラーや専門機関への相談も増えてきた。担任外の教員による個人や学級への対応も早くできたことが学校全体の落ち着きにつながっている。さらに相談しやすい学校づくりに向けて、校内の雰囲気づくりを工夫していく。規範意識については、きまりの確認と守るべきことへの意識向上を、学活や道徳等で丁寧に指導していくことが大切である。いじめ問題への対応については、いじめアンケート実施後の早期発見、早期対応に努めていくとともに、教職員の意識改革や人権感覚もさらに磨いていくよう研修を積んでいく。

健康教育 安全

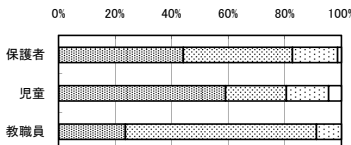
15 安全と事故防止

学校は、子どもの安全と事故防止に努めていると思いますか。



16 体力向上

子どもは、すすんで外遊びやスポーツをしていると思いますか。

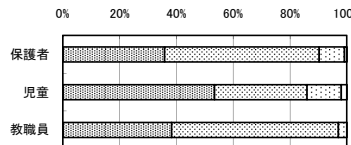


【学校から】毎月の安全点検は慎重に行っている。本年度は、毎週月曜日に日常環境衛生検査も実施しており、不備な箇所に対しては、迅速な対応に心がけた。避難訓練は、多様な場面を想定して内容充実を図り、子どもたちも真剣に取り組む姿が多くなった。また、静かに短時間で避難できるようにもなってきた。今後も「自分の命は自分で守る」を合言葉に全体の意識を高めていく。体力向上では、昨年度をわずかに上回っているが、校舎耐震補強工事のため、運動スペースの確保が難しく、わんぱくタイムの実施が十分でなかった。来年度は遊びの内容紹介やわんぱくタイムを定期的に設定し、確実な実践につなげていく。

学校行事

17 学校行事への参加と工夫

学校では、運動会や学習発表会などの学校行事が工夫されていると思いますか。

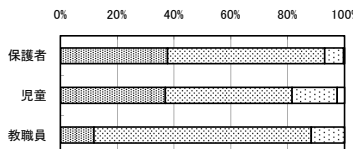


【学校から】評価は保護者は5%、児童は10%、教職員は2%高くなっている。9月から11月にかけて、授業参観と学習発表会等が続き続いたことで、来年度は無理のない計画で、ゆとりある行事を組むようにする。保護者が参加しやすいようにさらに参加の啓発を行い、魅力ある行事内容を検討していく。

学校環境

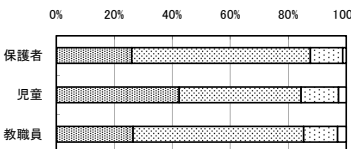
18 環境の整理・美化

学校では、校舎内外（花壇や掲示物など）がきちんと整理されていると思いますか。



19 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

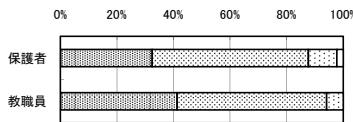


【学校から】教職員の4の評価が下がっているのは、本年度は、校舎耐震補強工事が行われたこともあり、環境整備に十分取り組めなかったからだと考える。黙って掃除する取組は3年目を迎え、マニュアル等も充実し、指導効果が見られるようになってきた。職員作業による不用物の撤去や児童の大掃除、PTA美化作業等で校舎がさらにきれいになった。学校園や教材も整備されたので、今後、環境整備や緑化活動（一人一鉢等）、清掃活動等、さらなる充実を図っていく。

情報の公開・発信

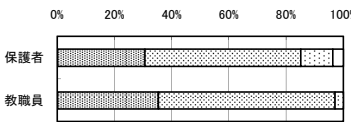
20 学校の予定等がわかる情報発信

学校からの文書等で、学校の情報が十分発信されていると思いますか。



21 教育活動への参加

学校が公開している教育活動（行事、授業等）は、保護者や地域の方が参加しやすいと思いますか。

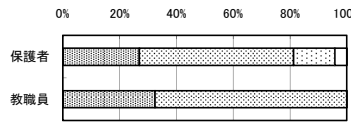


【学校から】携帯電話のメール（春竹小安心メール）を活用して、緊急連絡等を速やかに行うことができた。学年懇談会を設定したり、低学年と高学年の時間をずらした授業参観を設定したりした。行事ごとにわかりやすく文書で知らせたりしてきた。しかし、情報発信については、保護者と教職員も4の割合が2～5%下回った。さらに来年度はホームページの更新回数を増やし、学校だより・行事予定等の発信を進めていきたい。教育活動への参加についても、4の割合が3～5%下回ったことから、内容等の再検討とともに、参加しやすい雰囲気づくりに努めたい。

家庭・地域との連携

22 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

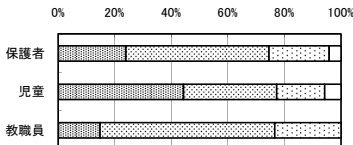


【学校から】「地域の子は地域で育てる」を合言葉に、地域のネットワークを生かし、春芳会（学校支援ボランティアの会）の協力のもと、様々な活動を進めてきた。読み聞かせボランティアによるお話しも児童は楽しみにしている。朝の交通指導では、「児童の安全を守る会」を中心に、登下校の安全を見守っていただいている。今後も家庭・地域の連携をさらに進めたい。

（学校独自）

23 家庭学習の定着

子どもは、進んで家庭学習をしていると思いますか。

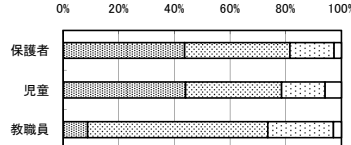


【学校から】今年度初めて取り入れた項目だったが、三者とも家庭学習に意欲的に取り組もうという意識が芽生えたことがわかる。秋田県の取組を学び、職員の共通理解のもと、PTA研修会で家庭学習の在り方を見直すきっかけづくりをした成果と考える。今後も具体的方針を保護者に呼びかけ、連携しながら家庭学習の充実とその定着を図る。

（学校独自）

24 基本的な生活習慣

子どもは、「早寝、早起き、朝ごはん」ができていますか。

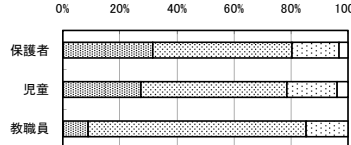


【学校から】初めてのアンケート項目である。1、2の評価を重く受け止め、学校と保護者が連携していく必要性を再確認した。「早寝、早起き、朝ごはん」の生活習慣こそ、今の子どもたちの生活の基盤となる。毎学期アンケートを取ったり、がんばり週間を設けたりしたので、その結果を公表し、成果と課題を明らかに示しながら、課題を克服していく。保護者との協働体制の仕方を工夫しながら、習慣化に向けて取り組む。

（学校独自）

25 責任意識

子どもは、進んで掃除に取り組んでいると思いますか。



【学校から】黙って掃除する週間の実施や放送しない静かな中での掃除時間設定等の工夫により、子どもたちは自分で判断し、黙ってすすみまで掃除に取り組む姿が増えてきた。しかし、まだ学年によって取組に差があるなど課題が残っている。来年度も引き続き継続した取組を行っていく。校内美化、生活・安全、企画委員会等からの自主的な発信を促し、さらなる徹底を図っていく。

来年度の具体的な取り組みについて

「1時間1時間の授業を大切に学級活動・生活単元学習の実践」をテーマとして、3年間の研究実践を積んできた。今年度の自主発表会には120人程度の参加者があり、児童の学習に取り組む姿勢や研究内容に対して、多くの賛同を得ることができた。学級目標実現への児童の積極的な取組、徹底した生徒指導、個に応じた指導や支援、春竹勉強会の充実等による基礎学力の向上を図ってきた成果と考える。その結果、子どもたちの生徒指導上の問題が減少し、あいさつやボランティア活動など進んで参加する児童が増えてきた。また、学習意欲も向上して、落ち着いた生活ができるようになってきた。今年度の学校評価を踏まえ、来年度から次のことに重点をおいて取り組んでいく。

- 学校教育目標の達成に向けた学年、学級の取組の推進**（目標を具体化し、実現に向けた子どもたちのアイデアあふれる活動を多く取り入れ、到達感や達成感を味わうようにする。振り返りを生かしながら、学年として、学級としての活動過程を評価しながらその向上を目指す。）
- 積極的な生徒指導**（重点指導項目を見直し、計画的な毎月の生活目標を掲げていく。学年の取組やよい行いをした児童を集会等で多く紹介しながら、子どもたちの規範意識を高める積極的な啓発を工夫する。）
- 学力の充実**（新指導要領の全面実施に向け、わかりやすい授業展開、個に応じた指導と支援、家庭学習の充実等を図る。特に、家庭学習に関しては、学習の仕方、内容の紹介、家庭での営め方を保護者に資料等で啓発しながら、学校の取組の理解を図り、連携した活動を進めていく。）
- 豊かな心と健やかな体の育成**（道徳や体育の授業の充実はもちろん、休み時間の遊びの紹介や遊具の工夫を積極的に行う。）
- 子どもと関わる時間の確保**（1時間1時間の授業の中で、日課表を見直し、放課後の時間や一人一人に関わりをもてるような個別指導の時間の確保を図る。）

学校関係者評価

○3年間の研究の成果や課題がよく出ている。また、子どもたちのいきいきとした姿が多く見られて素晴らしい。学校全体、各学年、各学級の中に支持的風土の高まりが見られ、学校全体がよい方向に高まってきている。評価項目を見ると、ほとんど児童の評価が高いのに驚いた。子どもたちがやる気をもって頑張ってきた姿の表れだと感じた。授業中の子ども同士の関わりを多くもち、教え合い、助け合いがさかんに仕込まれていることは今後も継続してほしい。

○子どもたちが安心して学校生活を送られるように、今年度は、新たに子ども全員との教育相談を設けられたこと、いじめや課題に対して迅速な対応がなされたこと等、早期発見と早期対応に向けた取組が大変よい。一人で悩まないという子どもや保護者、先生方の何でも言い合える雰囲気づくりは素晴らしいことなので今後も頑張りたい。

○担任不在の時、学級の子どもが先生を親のように親しみをもって待っていることがあった。担任を信頼しているその姿に感動した。さらに、他の先生が補助として学級に入り、授業を進めていられることで、保護者としても安心して、低学年からの子どもと担任との信頼関係を築き上げていくことは大事なことで、今後とも学校全体での取組を期待したい。

○本年度は学校独自の項目が3つ増やされてよかった。特に、基本的な生活習慣の定着は必要である。早寝・早起き・朝ごはんの取組は、ぜひ保護者にも投げかけ、さらなる連携を図ってほしい。朝ごはんはすべての子どもが食べてくるような家庭でありたい。